

令和4年度

御所小学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○主体的に自分の思いや考えを表現できる児童の育成
～話す力・聞く力・書く力の向上を目指して～

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
橋本 健太	校長:吉本 俊二 教頭:三宅 剛 研修主任:吉田 友美 学力向上推進部:日岡 直子 安友 ちひろ 吉岡 克樹

校長

吉本 俊二

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を設け、取組み状況の把握を行う

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○課題に対して、真面目に取り組む児童が多く、漢字や計算の基礎的・基本的な知識・技能が身に付いている。 ○学習のめあてや振り返りを書くなど、学習規律やノートの書き方が定着してきている。 ●話の聴き方が身に付いていない児童が多い。 ●児童によって、読書量に差がある。 ●日記や作文を書く活動で、学習で習った知識・技能を活用できていない児童が多い。	・基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているとともに、学校でも家庭でも読書をする習慣が確立している。 ・相手の話を目的意識をもって聞くことができる。 ・各学年で習った漢字や書くスキルを活用して文章を適切に書くことができる。	・単元ごとの小テストや前単元の復習を行う機会を確保し、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。 ・「読書通帳」の活用や、水曜日の「ノーマディアデー」に合わせた読書時間の確保により、休み時間や家庭での読書活動を推進する。 ・「話の聴き方 あいうえお」を基本とした指導を継続的に行うとともに、傾聴トレーニングを定期的に行う。 ・各学年の実態に応じた作文指導を行い、「書くスキル」の定着を図る。	・「わくわく読書デー」の取組み内容を充実させたり、読書通帳の内容を改善したりすることで、児童の読書活動をより推進させる。 ・話の聴き方の指導を徹底することや聴写の活動を取り入れることなど、「聴く力」を伸ばす指導を工夫して行う。	・基礎的・基本的な技能(漢字・計算)の定着を図ることはできたが、児童によっては学力の差が大きく、指導が行き届かない場面も見られた。 ・「ノーマディアデー」に本を持ち帰ることで家庭読書の時間が増加したが、毎日読書を行う習慣の定着までは至らなかった。 ・話を聴こうとする態度に高まりはあったが、目的意識をもって他者の話を聞ける児童は少ないという実態が明らかになった。	・学力差を考慮して個に応じた指導が行き届くよう、授業形態にさらなる工夫が必要である。 ・「わくわく読書デー」や「読書通帳」の活用方法を改善し、読書習慣の確立を目指す。 ・話の聴き方のポイントを分かりやすく説明し、継続的に聴く指導を行う。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○意見を発表しようとする意欲は、児童の中で高まってきていると感じる。 ●自分の考えをまとめたり、分かりやすく伝えたりすることに課題がある。 ●長い文章の構成を理解したり、資料を読み取り、活用したりする問題に苦手意識のある児童が多い。	・各授業の課題に対して、自分の考えをもち、解決する方法を考えることができる。 ・相手や目的に応じて、理由や根拠を明らかにしながら、自分の考えを書き、伝えることができる。 ・文章や資料から読み取ったことや考えたことを、自分の言葉でまとめたり、相手に分かりやすい表現で伝えたりすることができる。	・思考を深める発問や児童の表現の機会を大切に授業づくりを行う。 ・水曜日のモジュール学習は、思想的な問題に挑戦する時間を設ける。 ・日記や学習の振り返りで、書く課題(テーマを決める・新聞記事に対する意見・「書くスキル」を用いて書く等)を与える。	・「作文の書き方ヒントカード」を用いることで、段落や接続詞などを意識して文章を書く機会を増やす。 ・ワークシートやタブレットの活用方法を工夫し、児童一人一人が自らの意見を共有できる学習機会をさらに設定していく。	・ホワイトボードやタブレット端末を有効に活用することで、児童の考えを共有できる場面が増え、話し合い活動が活発になったり、表現の仕方が多様になったりした。 ・チャレンジ学習(水曜日のモジュールの時間)を取り入れたことで、長文を読んだり、資料を読み取ったりする活動に抵抗が少なくなった児童が増えた。 ・「作文の書き方ヒントカード」を用いた書く活動は、十分に実践することができなかった。	・他者と考えを比較したり、まとめたりする活動の中で、意見を共有するツールとしてホワイトボードやタブレット端末を有効に活用する機会を増やしていく。 ・全ての学年で作文帳を用いることで、週に1回程度の作文指導を継続して行う。 ・思考を深める発問や単元構成を工夫した授業づくりに継続して取り組む。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業に対して、素直に一生懸命取り組むことのできる児童が多い。 ○タブレット活用のスキルが身に付き始め、意欲的に学習に取り組もうとする態度が見られる。 ●見本や手本があると、課題に取り組むことができるが、自分で目標や計画を立てて、学習に取り組むことは苦手である。 ●児童によって自主学習に取り組む意欲や内容に偏りがあり、苦手なことを克服しようとする意識が低い。	・自分なりの目標をもち、学習のきまりを守って、主体的に学習に取り組むことができる。 ・「家庭学習とメディアのルール」を守り、自分の力を伸ばそうと各教科の課題や自主学習に取り組むことができる。	・児童自らが「家庭学習とメディアのルール」を決め、毎月の振り返りを行わせることで、自分の学習や生活の仕方をよりよいものにしていくという態度を高める。 ・自主学習コーナーを設置し、児童の見本となるノートを掲示したり、学習の仕方を提示したりする。 ・各授業や単元毎に、分かったことや疑問、これからやってみようという点について、振り返りを書く指導を継続して行う。	・児童同士で学習の振り返りを共有する時間を確保していく。 ・振り返りの書き方を提示したり、見本となる書き方を紹介したりすることで、より深まりのある振り返りを書くことができるように指導を行う。 ・朝会などを通じて、模範となる自主学習を学校全体で紹介する機会を設ける。	・低学年を中心に「ノーマディアデー」の習慣が定着してきた。 ・「家庭学習とメディアのルール」が形骸化し、毎月の振り返りが自分の学習や生活態度の改善につながらない児童も見られた。 ・自主学習コーナーを設置したことで、家庭での勉強の仕方に見通しをもてた児童が見られた。	・「めあて」に対する「振り返り」を行う時間を十分に確保することで、課題意識をもって学習に取り組む姿勢をさらに高めていく。 ・「家庭学習とメディアのルール」の振り返り方を改善したり、振り返りの結果を「見える化」したりすることで、毎月の振り返りをさらに有効なものにしていく。

令和4年度 学力向上ロードマップ



